

第2節 優れた環境人財の育成

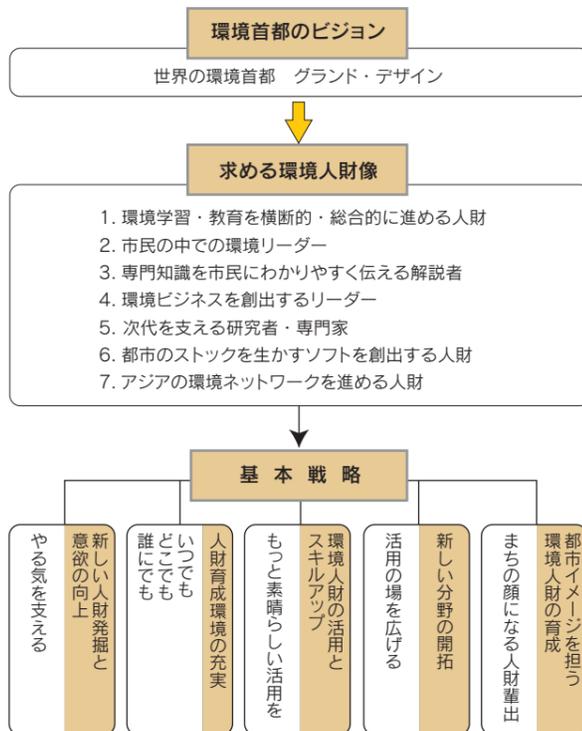
本市では、「まちづくりは人づくり」とし、市民は最も大きく重要な財産であると考え、「人財」育成の取組をすすめてきました。とりわけ、環境問題を解決していくためには、一人ひとりが環境との関わりについて理解し、具体的な行動に結びつけることが重要であることから、環境教育・環境学習の必要性はますます高くなっています。そのため、学校、家庭、地域などの様々な機会、場での環境教育・環境学習の更なる充実を図り、子どもから高齢者まであらゆる世代の環境人財が育成されるとともに、本市にある教育・研究機関等の施設群を活用し専門的かつ実践的な知見を身につけ、国内外で活躍するような人財を育成します。

1. 北九州市環境人財育成総合計画の推進

本計画は、「環境首都グランド・デザイン」を受け、平成18年10月に今後5年間の環境人財育成が効果的かつ適切に実施されることを目的とし策定しました。環境意識が世界一高い市民になるために、これからの社会で目指すべき人財像とその課題を抽出し、北九州市独自の環境人財育成の効果的・総合的な推進を目指しています。

本計画においては、人財育成のための施策の重点化と優先順位を設定し、育成の効率化と実効性を高めるとともに、人財育成に携わるすべての関係者の連携と調整を図ることとしています。

◆北九州市環境人財育成総合計画 全体図



2. 環境ミュージアムを拠点とした環境学習の推進

環境首都を目指す本市に、市民のための本格的な環境学習・活動交流の総合拠点となる「北九州市環境ミュージアム」を平成14年4月6日に八幡東区東田に開設しました。

館内には、北九州市の公害克服の歴史やさまざまな地球環境問題、それを防止するための環境技術などを展示しており、これらを施設インテプリターが詳しく紹介しています。また、市民ボランティアである環境学習サポーターが、身近なものに感じられ、楽しく学ぶことができる環境学習の場を提供しています。

また、館内には情報ライブラリを設置し、書籍約4,000冊・ビデオ約260本などを揃え、パネルや実験機器などとともに貸出も行っており、学校の授業など各種の環境教育に活用されています。

さらに、平成22年4月21日には、敷地内に「感じて」[学べる]21世紀環境共生型モデル住宅「北九州エコハウス」もオープンし、環境に優しい住まいづくりの情報発信も行っています。(10ページ参照)

平成21年度の利用者数は、116,098人でした。
(環境ミュージアムHPアドレス
<http://eco-museum.com/>)

3. 北九州子どもエコクラブ活動の推進

「子どもエコクラブ」とは、子どもたちが自主的に環境に関する学習や活動を行うクラブです。主な支援内容は、環境活動に関する教材や情報の提供、交流と学習を兼ねた宿泊交流会の開催やその指導者「サポーター」を育成するための研修会の実施などです。

平成21年度48クラブ、3,276名の幼児から高校生が活動し、市内の多くの子どもたちの自主的な環境活動が促進されました。

北九州子どもエコクラブは、創設以来会員数が常に全

国上位であり、クラブ同士の交流やサポーターの育成に力を入れている点が評価され、平成17年3月に行われたこどもエコクラブ全国フェスティバルにおいて、環境大臣から感謝状を授与されました。また、平成20年3月にはその全国フェスティバルが北九州市で開催されました。



4. 環境教育副読本による環境学習の推進

環境について学ぶ総合的学習プログラムに基づいて、幼児から中学生までそれぞれの発達段階に応じた環境教育副読本を平成12年度から作成し、平成14年度に幼児用、小学校低学年・中学年・高学年用及び中学生用の5段階シリーズ化が完成しました。平成15年度は、小学生用副読本の教師用指導書3種類と、幼児用の大型環境絵本を作成、平成16年度は、幼児用絵本の点字本と音声CDセットを作成し、さらに小学校低学年用副読本を大きく改訂しました。

平成17年度は、小学校高学年用の別冊資料として、環境学習サポーターの皆さんが語り継ぐ公害克服の体験紙芝居「青い空を見上げて」を発行しました。平成18年度は、本市のごみ収集制度について、全ての学年で学習できる内容に改訂し、教育現場で総合的な学習などの教材に積極的に活用されています。

幼児用	コスモスほしからきたベルル(環境絵本) (汎用版及び大型判、点字本と音声CDセット)		
小学生用	低学年	地球はみんなのおともだち	教師用指導書
	中学年	もっと知りたいみんなの地球	
	高学年	みんなで作ろうきれいな地球 別冊公害克服編「青い空を見上げて」	
中学生用	未来につなごうゆたかな地球		

平成21年度には、環境教育ワークブック「みどりのノート」(小学校低学年・中学年・高学年用の3種類と教師用指導書)の製作に取り組みました。各学年の学習に関連させながら、各教科や総合的な学習の時間の中で、児童が自分の思いを書き込みながら幅広く活用することができました。

北九州市の事例を用いて低炭素社会のよさに気づき、身近なところからエコライフに取り組んでみたいと思えるような具体的な例や、太陽光発電などの新エネルギーにも焦点をあてています。平成22年春には市内小学校全児童に配布しました。



5. 九州環境技術創造道場

(1) 概要

本市では、「世界の環境首都」づくりの一環として、優れた環境人財の創出を目的とする「九州環境技術創造道場」を実施しています。

本道場で育成する人財は、環境、特に廃棄物分野での幅広かつ実務的な専門知識を有する気概のある技術者です。受講後は主として九州地域ひいてはアジアの廃棄物問題の総合的な技術者、環境ビジネスのリーダーとしての活躍を期待しています。

講師陣には、本市エコタウンの有する人的ネットワークを活かして、国内でも有数の大学・民間企業等の技術者を招き、主に最終処分場について国内外の最先端の情報を取り入れた講義を実施しています。

また、講義のみの知識偏重教育ではなく、講師・受講生の双方向での討議・交流を実現するため、講師陣と寝食をとる合宿形式を採用しています。

(2) これまでの取組

九州環境技術創造道場は、平成16年度から毎年開催され、平成21年度までに民間・行政からの受講生137名が修了しています。道場修了後も、受講生による新聞(九州環境技術創造道場新聞)の発行など、講師・受講生間で相互交流が継続しています。



6. 環境学習サポーター

環境学習サポーターは、環境ミュージアムを拠点とする館内外の市内全域で、市民の環境意識を高め、環境学習・環境活動の活性化を図るために、環境学習や環境活動をサポートする市民ボランティアです。環境に関する知識や環境学習の指導者としての技術習得のための研修を毎月実施しています。

これまで、“燃料電池実験”“酸性雨実験”といった環境科学実験や“地球温暖化三択クイズ”“エコラベルペンゴ”といったクイズ形式など、様々なテーマを種々の体験型形式で活動を行い、市民の環境問題に対する意識向上の手助けをしています。また、これらの環境教育プログラムを、小学校や市民センターなどでも“出張環境ミュージアム”ということで企画し、環境学習や活動のサポートをしています。その他にも、ごみ処理工場や浄化センターなどのガイドを行うなど北九州市全域で幅広く活躍し、市民の環境保全の意識を高め、環境学習・活動を推進しています。

平成 21 年度の環境学習サポーター数は 80 名で、活動日数は 306 日、延べ活動人数は 3,763 人でした。



7. 北九州市自然環境サポーターの育成

平成 17 年 9 月に策定した「北九州市自然環境保全基本計画」の 5 つのリーディングプロジェクトの一つとして「自然に精通した人材（北九州市自然環境サポーター）の育成」をあげており、北九州市自然環境サポーターの育成を図ることを目的として養成講座を実施しています。

自然環境サポーターとは、自然に対する正しい知識や、自然との上手なつき合い方などを習得した自然分野での市民応援団のことで、平成 17 年度から開始した養成講座の修了生をいいます。

平成 21 年度の第 4 期の養成講座は、平成 21 年 8 月 22 日に開講し平成 22 年 2 月 27 日の修了式まで、下記の内容の全 11 回の講座を実施しました。

第 4 期養成講座では、55 名の方が受講され、その内 36 名の方が同講座を修了し、北九州市自然環境サポーターとして認定されました。

現在、第 1 期（56 名）、第 2 期（37 名）、第 3 期（66 名）及び第 4 期（36 名）のサポーターの方々が、北九州市の自然のフィールドで様々な活動をしています。

第 4 期北九州市自然環境サポーター養成講座

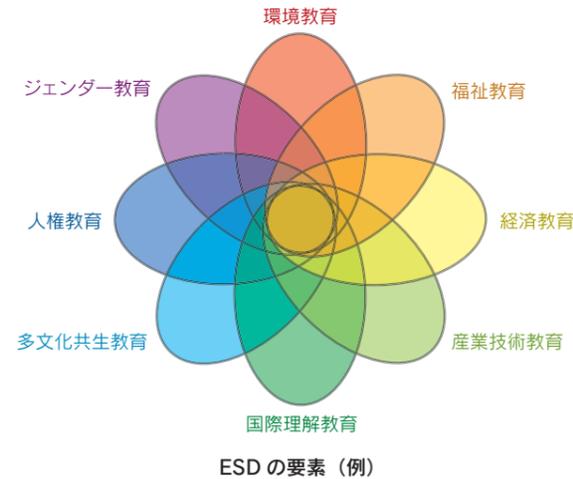
第 1 回	講義「北九州市の自然とその保全」
第 2 回	講義「川辺の生き物（昆虫・トンボ）」
第 3 回	フィールド「川の生き物探しと川清掃」
第 4 回	フィールド「農業体験から学ぶ自然環境」
第 5 回	講義「農業を通じた自然環境の現状」
第 6 回	フィールド「外来魚防除活動」
第 7 回	講義「森のはたらきと植物について」
第 8 回	フィールド「森を見る目（樹木・植物観察）」
第 9 回	フィールド「曽根干潟の鳥類観察」
第 10 回	フィールド「身近な山・里山保全体験（竹林整備）」
第 11 回	講義「里地里山の問題について」



8. 「持続可能な開発のための教育（ESD）」の推進と国連大学・地域拠点（RCE）の認定

(1) 持続可能な開発のための教育（ESD：Education for Sustainable Development）

持続可能な社会を実現するための教育で、環境教育、人権教育など、幅広い教育を総合的に進めるものです。また、教育は、学校のみならず、家庭、社会、職場などで、また、こどもからおとなまでを対象にしています。一人ひとりが、世界の人々や将来世代、また、環境との関係の中で生きていることを認識し、よりよい社会づくりに参画するための力を育む教育です。



(2) 本市が目指す ESD

本市は、「世界の環境首都」を目指しており、それは「持続可能な社会」を構築することです。北九州市の ESD はまさに、環境首都づくりのための教育であり、その推進のために、平成 18 年 9 月、市民・NPO、学校、企業、行政等から構成された「北九州 ESD 協議会」（加盟団体 64 団体、平成 22 年 3 月現在）が設立されました。

多様な教育を結び付けていくとともに、その中に「持続可能な開発」の考え方を取り入れ、活動の愛称である「未来パレット」を活用し、市民への啓発を進めていきます。

平成 21 年度の活動は次のとおりです。

- 啓発用リーフレット等の作成
- ESD 認知度調査
- ESD 学習会
- 出前講演
- 国内外との連携
 - 10 月 生物多様性 COPIO に向けた RCE 連携のための会議
 - 12 月 ESD 国際シンポジウム（北九州市立大学北方キャンパス）



北九州における ESD 活動のニックネーム



(3) 国連大学・地域拠点（RCE）の認定

平成 18 年 12 月に本市は、国連大学が全世界で進めている ESD 推進のための「地域拠点（Regional Centre of Expertise：RCE）」に、世界 22 地域とともに認定されました。本市の ESD を促進するとともに、国際的な社会との情報の共有や連携を推進しています。

9. 北九州市環境首都検定の実施

(1) 目的

本市では、市民環境力の強化を図るため、平成20年度に「北九州市環境首都検定」を創設しました。

これは、「北九州市環境基本計画」(平成19年10月策定)の戦略プロジェクト並びに「北九州市環境モデル都市行動計画」の取組の一つでもあります。

北九州市独自の環境分野の検定を実施することによって、環境学習の機会を増やし、環境意識のレベルアップや環境に関心を持つ市民の裾野を広げます。

また、本市の環境首都への取組における認知度を高めるとともに、エコライフの取組を身近に感じることができきるきっかけをつくります。

平成21年度は、受検者アンケートの結果を踏まえ、主に小学生向けの「入門編」と主に中学生以上向けの「一般編」の2部門を設けるとともに、高得点(70点以上)の参加者を合格として合格証を交付しました。また、本市の環境首都への取組全体を幅広く網羅した公式テキストを作成し、販売を始めました。

(2) 検定の概要

[受検資格] なし

[受検料] 無料

[出題形式] 入門編：問題数40問(4択形式)
一般編：問題数50問(4択形式)

[合否判定] 70点以上合格

[主な出題範囲]

- ・入門編：北九州市小学校高学年用環境教育副読本「みんなで守ろう!!きれいな地球」
- ・一般編：公式テキスト
- ・わがまちの環境自慢

[学習ツール]

- ・「環境首都検定予備校」(インターネットによる予備校)
- ・「NHKデータ放送」による模擬試験
- ・環境局ホームページで模擬問題



検定実施会場の様子



平成21年度 募集広告

(3) 実施結果(平成21年度)

[実施日]

平成21年12月20日(日)

[会場]

西日本総合展示場

[実施結果]

	入門編	一般編	計
受検者数	73人	757人	830人
平均年齢	14.5歳	43.2歳	-
平均点	71.1点	79.3点	-
合格者数(70点以上)	50人	617人	667人
合格率	68.5%	81.5%	80.36%
最高点(100点)	1人	4人	5人

[特徴]

- ① 家族、学校、企業、地域団体など様々なグループで受検(58団体、401人)
- ② 一堂に会した受検(同じ教室での世代間交流)
- ③ 下関市や周辺地域のほか、東京都、愛知県など市外からも100人(12%)が受検



合格証

(4) 今後の取組

平成22年度以降については、受検者の皆さんからいただいたアンケートの結果(回収率：入門編100%、一般編98.4%)をもとに、より楽しく、より役立つ北九州市らしい検定制度を確立し、環境への意識の向上、ライフスタイルの変革につなげていくことを目指します。

また、企業のCSR活動に役立てるなど様々な場での活用を拡大を図っていきます。

第3節 環境情報の共有と発信

本市では、地域コミュニティ活動や自然環境の保全活動、ものづくりの経験などを通じ、様々な環境情報が蓄積され、ネットワークづくりも進められています。

今後、市民をはじめとするあらゆる主体が多種多様な情報を共有し、そこから新たな情報や行動を生み出し、発信していくため、情報共有・発信・交流の基盤づくりを進めていく必要があります。また、本市における環境に関する取組を市内外ひいては国内外に、広く発信し、情報の共有化を図るとともに、その情報をもとに多くの人が訪れるような本市のセールスポイントの効果的な発信を積極的に行っていきます。

1. 世界の環境首都創造に向けた情報発信

環境首都づくりに係る取組や成果を、インターネットによる環境情報ポータルサイト「エコライフネット」や環境首都レポートの作成等により効率的に集約し、環境情報を積極的に受発信できる交流の場を構築しています。

また、マス・メディア、インターネット、関係機関のニュースレター等様々な媒体を利用し、関係組織・機関との連携・協力により、市内はもちろんのこと国内外へ積極的にかつ組織的に情報発信します。

○「エコライフネット」について

北九州市の環境情報をすべて網羅したポータルサイトのことで、運営(管理)主体は、行政ではなく、民間ベースで行っているにもかかわらず利益追求を目的としないため、情報提供者は、行政、企業、大学、NPO、市民団体まで幅広くなっています。また、提供される情報も、最新の行政、企業、大学の取組や市民活動の日程に至るまで、市民にわかりやすい言葉で環境に関する情報を発信しています。

・エコライフネットの管理・運営：

北九州エコライフステージ実行委員会事務局

・外部リンク：

北九州エコライフステージ、北九州エコタウン、環境ミュージアム、北九州市エコライフプラザ等の各HP



エコライフネットのトップページ
<http://www.ecolife-net.jp/>

2. あらゆる主体による環境政策への参加の推進

環境問題の現状、課題、取組等に係る環境情報を誰でも容易に入手できる体制を整備し、環境行政のあらゆる過程において、市民・NPO、事業者、行政が連携・協働し、知恵を持ち寄り、共に考え、行動し、成果を検証するなど環境政策への参加を一層進めます。

(1) 北九州市環境モデル都市地域推進会議

本会議では、本市の環境モデル都市に関する取組を、市民・NPO・産業界・学術機関が一体となり、総合的かつ効果的に進めていくことを目的としています。

本会議では、環境モデル都市に関わる情報の発信や、事業の推進、進捗状況の検証などを主な活動とし、登録を行っている約380の団体・事業所・個人等で構成されています。

平成20年9月に、北九州市衛生総連合会、北九州市女性団体連絡会議、環境市民活動サポートセンター、北九州青年会議所、北九州活性化協議会、北九州産業学術推進機構、北九州商工会議所、北九州市の産学官民8者を発起人とした「北九州市環境モデル都市地域推進会議」が発足し、現在は、連合福岡北九州地域協議会も加わり9者で同運営委員会を構成しています。

当会議は、「北九州市の全ての関係者が力を合わせて環境モデル都市の推進を図っていく」を設立趣旨として宣言し、「北九州市環境モデル都市行動計画(北九州グリーンフロンティアプラン)」に掲げる取組の推進母体として活動を行っています。

◆北九州市環境モデル都市地域推進会議登録団体支援事業(グリーンフロンティア助成)について

「北九州市環境モデル都市地域推進会議」に登録している市民団体、NPO、産業界、学術機関等の団体が実施する環境モデル都市を推進する活動を支援するため、平成21年度に、「北九州市環境モデル都市地域推進会議登録団体支援事業(略称：グリーンフロンティア助成)」を